

J R連合 N EWS

J R 産業に集う すべての仲間の J R 連合への 総結集を!!

2023 年度

No. 67

2024年2月16日

日本鉄道労働組合連合会

JR九州労組第36回定期中央委員会

明るい未来を勝ち取るべく、2024春闘勝利を目指し団結を誓う!

JR九州労組は2月7日、福岡市内で「第36回定期中央委員会」を開催し、執行部及び中央委員、来賓を含め総勢約50名が参集した。同委員会では、2024春季生活闘争や組織の強化・拡大と活性化などの当面する活動方針が採択され、すべての組合員が一致団結して取り組むことを確認した。

冒頭、主催者を代表して挨拶に立った吉田祥司中央執行委員長 (JR連合副会長)は、日々、現場で安全・安定輸送に奮闘する 組合員に敬意を表したうえで、「社会が目まぐるしいスピードで変」



化する中、組合員に寄り添う労働組合の姿勢は変わらない。共に取り組んでいこう」と訴えた。その後、主要課題に対する所信を表明し、とりわけ2024春季生活闘争については、経済社会のステージ転換を着実に進める必要性に言及。「人財の確保・定着につながる賃上げと働き方の見直しをいかに実現するかがカギであり、物価上昇を上回る賃上げ、働きの価値に見合った労働条件を目指して交渉を展開する。全組合員一致団結して取り組んでいこう」と呼びかけた。

JR連合からは石川敏也産業政策局長が出席し、「JR連合が決定したベア1万円要求の方針はこの間の組合員の奮闘や物価の高騰等を踏まえれば常識的な水準。産業間の格差是正のためにも達成しなければならない」と説いたほか、労災事故がなくならない現状を踏まえ、「現場最前線で奮闘する組合員の目線を活かした労働組合の取り組みを通じて、すべてのJR関係者の死亡事故・重大労災ゼロを達成しよう」と協力を求めた。



議事では、執行部から「純ベア 10,000 円を含む月例賃金総額 3 %以上の賃金引上げ要求」を軸として、「賃金改善要求 31 項目」「総合生活改善に関する要求 11 項目」「夏季手当 3.0ヵ月分」を要求する 2024 春季生活闘争をはじめとした当面する活動方針が提起された。これに対し、13名の中央委員から今次春闘に対する期待感の高さや人財確保の必要性を訴える意見のほか、JR九州サービスサポートからの出向社員の転籍、地域社員からの社員転換等へ

の組織対応について、活動方針を補強する発言があった。

その後、執行部答弁及び大 久保浩書記長の総括答弁を 経て、すべての議案が満場一 致で採択され、最後に吉田中 央執行委員長の団結がんば ろうで締めくくった。

